

船舶事故調査報告書

令和7年5月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和6年10月18日 06時02分ごろ
発生場所	山口県徳山下松港 徳山下松港東ソーセメント1号棧橋灯台から真方位201°740m付近 (概位 北緯34°03.0′ 東経131°45.6′)
事故の概要	押船新東明は、バージ新東明1号を押航して左回頭中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和6年11月8日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 押船 新東明、198トン 144101、東ソー物流株式会社（A社） B バージ 新東明1号、総トン数なし（全長92.3m） なし、A社
乗組員等に関する情報	船長A、四級（航海）
負傷者	なし
損傷	A なし B 右舷船底外板に擦過傷
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 東、風速 約2m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期、潮高 約195cm（徳山） 日出時刻：06時20分ごろ
事故の経過	A船は、船長Aほか5人が乗り組み、空船のB船の船尾部に船首部を結合して全長約115mの押船列（以下「A船押船列」という。）を構成し、1.5海里（M）レンジ及び3.0Mレンジに設定したレーダー2台並びに電子海図表示装置を作動させ、山口県宇部港に向けて徳山下松港企業棧橋（以下「本件棧橋」という。）を離棧した。 A船押船列は、船長Aが、船橋当直につき、本件棧橋南方沖で仙島水道を西航する針路となるようB船の船首を南西方に向けた後、同水道に沿って約6ノットの対地速力で航行した。 船長Aは、A船押船列の前方1,300m付近に入港してくるセメント運搬船（以下「入港船」という。）及び同船を支援するタグボート1隻を視認したので、入港船を目視で見張っていたが、仙島水道の可航幅であれば、A船押船列と入港船が同水道内で行き会うことができると思い、引き続き仙島水道に沿って南西進を続けることにした。 船長Aは、入港船とA船押船列とは左舷対左舷で行き会おうと考え

	<p>ていたが、入港船が仙島水道の中央付近を航行してくることを認めた。</p> <p>船長Aは、入港船との距離を隔てる目的で、A船押船列の進路を西南西方に向け、仙島水道の北方沖まで航行を続け、仙島水道に沿うように左転しながら航行を続けたところ、本件棧橋南方沖の浅所（以下「本件浅所」という。）に乗り揚げた。</p> <p>船長Aは、海上保安庁に本事故の発生を通報した後、A社担当者に報告した。</p> <p>船長Aは、A船押船列の損傷状況等の調査を行い、浸水がないことを確認した。</p> <p>A船押船列は、上げ潮を待つて自然離礁し、自力航行により仙島水道南方沖まで移動した後、投錨した。</p> <p>A船押船列の喫水は、船首約2.4m、船尾約3.7mであった。</p> <p>船長Aは、本件浅所の存在を知っていたが、少しぐらい仙島水道の外側の海域を航行しても、仙島水道及びその付近海域であれば水深が確保されており大丈夫と思い、本件浅所付近海域の水深を確認しなかった。</p> <p>（付図1 航行経路図 参照）</p>
<p>分析</p>	<p>A船押船列は、出港中、船長Aが、少しぐらい仙島水道の外側の海域を航行しても大丈夫と思い、本件浅所の水深を確認しなかったことから、入港船を避ける際に本件浅所に向けた進路をとり、本件浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長Aは、仙島水道及びその付近海域であれば水深が確保されていることから、少しぐらい仙島水道の外側の海域を航行しても大丈夫と思ったものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、夜間、A船押船列が、出港中、船長Aが、本件浅所の水深を確認していなかったため、入港船を避ける際に本件浅所に向けた進路をとり、本件浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>A社は、本事故後、次のとおり改善策を講じることとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自社所有船乗組員に対し安全講習会を実施し、海図及び電子海図表示装置にコースラインと避険線の設定を実施させることとした。 ・ 着離棧作業チェックリストを設定し、その中で、他の入出港船に関する情報を入手することを取り入れた。 <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、自船が出港船であっても、入港してくる船の進路や運動性能等を考慮し、自船が浅所に接近して航行しなければならない可能性がある場合は、自船が安全に航行できるようになるまで、安全な海域で待機すること。

付図1 航行経路図

